

<外来化学療法室>

当院外来化学療法室は、2012年4月に新設されました。それと平行して、同年4月に大阪府地域がん診療連携拠点病院に指定されました。がん診療連携拠点病院とは、全国どこでも質の高いがん医療が提供できるよう、また、専門的ながん医療の提供、地域のがん診療の連携協力体制の構築、がん患者さんへの相談支援及び情報提供等を目的につくられたものです。

当院外来化学療法室での平成26年度抗がん剤治療件数は、延べ635件、うち大腸がん治療が43%と1番の割合を占めています。次に多いのが肺がん治療で17%、次いで乳がん治療が15%と続きます。

当院ではがん診療推進チームが中心に、医師・看護師・薬剤師・理学療法士・事務職員など様々な職種が連携を図り、チーム医療に積極的に取り組んでいます。その中で、他院ではあまり見られない「前日採血制度」を設けています。

従来抗がん剤治療を受ける患者さんは、「受付」「採血」「結果待ち」「診察待ち」「診察」「調剤」「点滴治療」という一連の流れを1日で行わなければいけませんでしたが、この「前日採血制度」では、「採血」→「結果待ち」を省くものです。患者さんは、抗がん剤治療前日の10時頃から16時頃の自由な時間に来院し、採血だけをして帰宅。そして次の日には採血結果が出ていますので、少なくとも1時間以上の時間短縮が図れます（もちろん費用に差はありません）。

2025年には2人に1人が、がんを罹患すると言われています。泉尾病院がん診療推進チームでは、「がんと診断されたときからの緩和ケアの提供」を目標に、チーム医療すなわち病院スタッフが一丸となって取り組んで行く、そんなシステム作りが構築されています。

